



**医学セミナー**  
**第9回分子遺伝疫学セミナー**  
**ゲノム医科学リサーチユニットセミナー**

**「内臓脂肪の進化医学：  
Tribbles Homologファミリーを例に」**

**講師：中山 一大 先生**

**(自治医科大学分子病態治療研究センター人類遺伝学研究部 助教)**

**日時：平成24年7月12日(木) 17:00-18:15**

**会場：医学群棟4A411**

内臓脂肪とは腸間膜などの腹腔内臓器の周辺に蓄積する脂肪組織であり、遊離脂肪酸・アディポサイトカインなどのいわゆる“悪玉”因子を盛んに分泌するため、メタボリック症候群の重要な病態基盤と認識されている。内臓脂肪蓄積の遺伝率は30~50%程度で、明らかな遺伝的素因の関与が認められるが、その基盤となる遺伝子は謎に包まれており、さらには、なぜ内臓脂肪の蓄積に個人差が存在するのかについて明確な回答は得られていない。我々は最近、細胞内シグナル伝達のもジュレーターとしてはたらく Tribbles Homolog タンパク質ファミリーの遺伝子上に、日本人における内臓脂肪面積と強く関連するSNPを発見した。さらにこの遺伝子周辺のゲノム情報を精細に解析することによって、東アジア人の祖先集団において、内臓脂肪蓄積と結びついた上記SNPが正の自然淘汰の作用を受けた痕跡を見出した。本セミナーではこれらの成果を基に内臓脂肪と現生人類の進化の関わりあいについて考察する。

連絡先：医学医療系 分子遺伝疫学研究室  
土屋尚之(tsuchiya@md.tsukuba.ac.jp)